



ハインリッヒの法則は「**1 : 29 : 300の法則**」とも呼ばれ、「1件の重大な事故の背後には、29件の重大な事故には至らなかった軽微な事故、さらにその背後には300件の事故寸前だったできごと（ヒヤリハット）が隠されている」とするものです。

ハインリッヒの法則は、今から90年ほど前の1931年、米国の損害保険会社で当時副部長であったハーバート・ウィリアム・ハインリッヒが、ある工場で発生した5,000件にも及ぶ労働災害を調査して導きだしました。

ハインリッヒの法則を踏まえると、日ごろからヒヤリハットの情報を把握して、再発防止のための対策を講じることが、重大な事故の発生の防止につながっていくのです。